The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ひとりを看る目、その目を世界へ
Author(s)	小川, 里美
Citation	目で見るWHO. 2024, 89, p. 18-19
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/98286
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ひとりを看る目、その目を世界へ

日本赤十字九州国際看護大学　学部長
小川 里美　（おがわ さとみ）
青森県保健大学大学院博士後期課程修了。赤十字国際委員会の要員としてアフリカ、中東、アジア諸国の武力紛争地域における医療活動や人材育成に従事。

日本赤十字九州国際看護大学は、赤十字の理念を実践できる看護師人材育成のために、1998年3月に福岡県宗像市に開設されました。赤十字の理念である人道とは、「あらゆる状況下において人の生命と尊厳を守ること、人々の苦痛を予防し軽減すること」です。本学は大学名に国際を標榜しており、国際看護関連の科目は充実しています。主な科目の学習活動について紹介します。

学部で学ぶ国際保健・看護 - 国際協力の模擬体験や国際交流協定校との実践学習

２年次後期必修科目「国際看護学総論」では、講義で基礎的な知識を学習した後、国際協力の模擬体験を目的とした演習を行います。実例をもとに作成した難民受け入れのシミュレーションをします。学生たちは「何を、どのように、どうすればよいのか」を考え議論を重ね、受入れ案を作成し発表します。様々な制限のある中で人々の生命と健康、尊厳ある生活を守ることの難しさや厳しさを実感しています。これはまさに国際協力の現場で生じていることです。

３年次前期選択科目「国際看護学実践（基礎 / 海外研修）」では、国際交流協定校のひとつであるベトナムのナムディン看護大学で研修を行います。両国に共通する保健課題からテーマを決め、事前学習を行い研修に臨みます。両国の学生が課題解決に向けた取り組みを考え実践します。ナムディン看護大学での研修は2013 年から実施していますが、当初は大学以外での実践活動については理解や協力を得ることができませんでした。しかし、ナムディン看護大学の先生方のご助力により、今では地域や学校等が積極的に受入れてくれるようになりました。これまでの取り組みとして、幼稚園児及び小学生を対象とした「保健衛生行動の指導（正しい手洗いと歯磨き）と火災発生を想定した避難訓練」、中学生を対象とした「交通事故から命を守る－頭部外傷とそれを予防するための正しいヘルメットの選択と装着」、高校生を対象とした「HIV/AIDS 感染予防」等があります。学生たちのアイディアと工夫による授業や演習は、生徒や先生にも好評です。「交通事故から命を守る」の授業では、中学生にベトナムの交通マナーやヘルメット選択を問うものでした。日本で主流のヘルメットはベトナムでは高価で入手が困難です。ヘルメットの素材を実際に触れてもらい、どのような素材や型が頭部を保護し、命を守ることができるのかを考えてもらいました。高校生への性教育では、地元の高校生のピア・エデュケーターと話し合いながら講義内容を考え、看護学生ならではの発想でコンドームの正しい装着の演習を加えました。高校生も最初は戸惑っていましたが、講義をふまえての演習であったため、自分たちに必要なものであることを理解してもらえました。当日はクラス担任で生物を担当されている先生も参加されました。生徒や先生からは、「自分たちでは発想も実施もできなかった。看護学生の協力を得て命や健康を守るために必要なことを学習できた。」という感想をいただきました。また、地域の一次医療施設であるヘルス

写真１　施設の概観 ©日本赤十字九州国際看護大学

写真２　「国際看護学実践（基礎/海外研修）」幼稚園での避難訓練の様子（ベトナム）©日本赤十字九州国際看護大学

写真３　「国際看護学実践（基礎/海外研修）」高校生への「HIV/AIDS感染予防」の授業でred ribbonを作成（ベトナム）©日本赤十字九州国際看護大学

写真４　「赤十字活動実践（応用）」学生ボランティア主催　留学生のwelcome party ©日本赤十字九州国際看護大学

センターにおいても健康チェックや体操を継続して実施しています。今では日本の学生の恒例行事となり、地域の人々も毎年楽しみにして参加して下さいます。ベトナムでの研修は、言葉や文化、考え方の違いを乗り越え、両国の学生が協働して何かを生みだすプロセスを体験しながら学んでいます。

３年次後期の選択科目「国際看護学実践（応用 / 海外研修）」では、学生個人が興味関心のある保健医療や看護の課題について学習テーマを決め研修計画書を作成し、国際交流協定校において研修を行います。インドネシアの国立アイルランガ大学看護学部、スイスのラ・ソース大学が主な派遣先です。派遣先の大学は、研修計画書をふまえ、施設の見学や実習、先方の学生とのディスカッションの機会を設定してくれます。学生たちは、母子保健、メンタルヘルス、高齢者への支援、ヘルスプロモーション等に関連するテーマで研修を行っています。

４年次前期の選択科目「赤十字活動実践（応用）」では、国際交流協定校の学生が本学の学生とともに赤十字の特徴的な活動でもある「災害とその対応」について学習します。災害は人の生命や健康、生活を脅かす非常事態です。災害多発国である日本の状況や課題、取り組みを調べ、宗像市にある離島で演習を行います。高齢化が進む離島は、日本が抱える様々な課題の縮図であるといっても過言ではありません。地域における自助・共助を強化し、災害に強い地域づくりをどのように実現していくのかをコミュニティセンターや地域の人々とともに考えます。島民の皆さんも外国人留学生を快く受け入れ、学習活動を支援して下さいます。日本の災害対応を学んだ留学生が、将来、災害時の支援に積極的に関わってくれることを期待します。

国際保健・看護の発展につなぐ大学院教育・研究

大学院では、共通科目として「グローバルヘルス」が設置されています。多様化・複雑化する健康課題について学際的な視点で分析し、看護の役割について考察します。SDGs に関連する保健医療看護、福祉の様々な課題について、院生それぞれが分析した結果を協議します。国際保健・国際看護領域では、災害・国際協力とヘルスプロモーションの学問分野を統合し、国内外を問わず個人・集団の健康と安全に関する研究に取り組みます。修了生は地域や医療施設が抱える課題、国際協力の現場で直面する課題をテーマに研究に取り組み、その成果を現場に還元しています。国際協力等の経験のある方は、ご自身が体験されたことを個人の報告で終わらせるのではなく、是非、研究として取り組まれることを願います。研究で得られた新たな知見を社会へ発信することが、国際保健・看護の課題解決、発展につながります。“Together Humanity　人間を救うのは人間だ”、赤十字や国際保健・看護分野に興味のある方は、是非、本学で学んでみませんか。